

REDD プラス関連情報—REDD プラスに言及している公刊図書 (和文)

森林総合研究所に設置された REDD 研究開発センターでは、国内外で大量に発表される REDD プラスに係る情報の集約・データベース化を進めている。データベースに登録された文献・資料のうち、インターネット上で無料公開されているものと、リクエストに応じて REDD 研究開発センターから提供できるものについて一覧表を作成し、同センターウェブサイトで公開している。ここでは無料公開されていないことから、文献一覧表に掲載していない REDD プラスに言及している日本語の公刊図書について、概要を紹介させていただく。

○亀山康子・高村ゆかり 編 (2011) 気候変動と国際協調—京都議定書と多国間協調の行方— 慈学社 <http://www.jigaku.jp/mokuroku68.htm>

同書は、今後の気候変動に対処するための国際枠組みの行方を検討することを目的に刊行された。今後5年から10年先の国際情勢や環境問題への関心の高まりなどを複数の側面から議論し、気候変動への対処のための国際枠組みが、「多国間中心」あるいは「自主的取り組み中心 (二国間協力)」のどちらに向かいそうか、また、その中での国の約束は拘束力の強いものが志向されるか否か、それぞれの帰結における意義と課題、課題となる点を改善するために必要となる方策、が学術的見地から検討されている。

REDD プラスに直接関わるものとして、第5章 国際的取り組みにおける森林の扱いと今後の方向性 (天野正博) において、森林を吸収源において交渉の中でどう位置づけるべきか、各国の状況を踏まえた検討がなされている。

○小林紀之 著 (2008) 「温暖化と森林 地球益を守る—世界と地域の持続可能ビジョン—」, J-FIC.

地球温暖化対策における森林の役割について、

2008年までの世界の動きと日本の取り組みに関する解説書。温暖化の影響予測、気候変動枠組条約、京都議定書、ポスト京都に向けた議論など幅広い話題が、Q & A 形式で簡潔に説明されている。『セッション3-2「REDD」とは?』に、(COP13までの) 検討の経緯、COP13での決議事項およびその後の検討課題が整理されている。本書の根底には、地球温暖化防止の取り組みに森の力を活かすことが「地球益」に結びつく—木を植え、森を育て、守り、木を適切に使うことが地球温暖化を防ぐことになる—という考え方がある。気候変動緩和策として、森林・林業に期待されている役割を理解する助けとなる。

○橋本征二 (2010) 「森林等吸収源に関わる制度—原則とそれに基づく各種提案の予備的な評価—」 新沢秀則 (編著) 「温暖化防止のガバナンス」 ミネルバ書房 pp155-184.

温暖化防止のガバナンスにおいて、森林等吸収源の役割に対しては、積極的に活用しようという立場とできるだけ活用を避けようという立場があり、それは森林等吸収源の知見や特徴に対する異なる評価に起因している。森林等吸収源の知見や特徴を整理し、京都議定書の第一約束期間における制度の課題について検討する。また森林等吸収源に関わる制度をより望ましい制度に方向付けるための原則について検討し、2013年以降の制度として2008年12月までに示された REDD を含む複数の提案について議論する。表7-4に REDD に関する予備的な提案の評価がまとめられている。

○原田一宏 (2011) 熱帯林の紛争管理 保護と利用の対立を超えて。 原人舎.

『終章 保護地域をめぐるパラダイム転換—生物多様性保全から地球温暖化防止へ』において、(イ

ンドネシアの) 保護地域を事例にして, REDD の導入が森林に依存する人々に与える影響について考察するとともに, REDD を効果的に利用した, 望ましい保護地域管理について検討している。

○百村帝彦 (2009) 「生物多様性と温暖化 —森林保全策としての森林認証と REDD」, 『生物多様性・生態系と経済の基礎知識 わかりやすい生物多様性に関わる経済・ビジネスの新しい動き』林希一郎編, 中央法規: pp245-268

地球温暖化の生物多様性に対する影響, 地球温暖化の適応・緩和策の重要な要素である森林での取り組みとして, 森林認証制度と REDD について紹介している。REDD については, COP13 前後までの動向, FCPF と UN-REDD という国際イニシアティブ, 取り組み事例として CCB 基準, マダガスカルとカンボジアの事例を報告している。表 11-1 に 15 の REDD プロジェクトから推計される炭素排出抑止量が示されている。

○百村帝彦 (2010) REDD 実施が村落に果たす役割と課題—カンボジアの事例より, 市川昌広・生方史数・内藤大輔 (編), 熱帯アジアの人々と森林管理制度—現場からのガバナンス論— p206-221

途上国の森林をとりまくこの REDD の動向について述べるとともに, カンボジアで実施されている REDD プロジェクトにおけるローカルレベルでの森林管理を概観し, REDD が途上国の森林管理においてどのような影響を与えるかについて検討する。

なお同章を含む書籍「熱帯アジアの人々と森林管理制度—現場からのガバナンス論—」には, マレーシア, バングラデシュ, ラオス, フィリピン, タイ, インドネシア各国の森林管理制度および住民による森林利用と管理, 森林認証 (マレーシア, インドネシア), CDM 植林 (インドネシア), REDD (カンボジア), 生物多様性条約 (ボルネオ島) という自主的もしくは国際的枠組の概説とカッコ内に示した国における森林地域住民への影響が, まとめられている。各章では, 対象とする国もしくは制度についての解説と, それぞれの章の著者による現地調査から制度が人々の生活に与える影響が述べられてお

り, REDD に言及していない章であっても REDD の政策設計に重要な情報を得ることができる。

○森林環境研究会編 (2011) 森林環境 2011/国際森林年～森の明日を考える 12 章, 森林文化協会。

井上真氏が執筆した, 「温暖化防止対策としての森林保全: REDD+ 制度設計の課題」は, 多くの読者が REDD について考える際の基盤を提供することを目的に, REDD の経緯を概観し REDD+ の制度設計において重要な政策的課題について検討している。また原田一宏氏による「変わりゆく熱帯林と地域住民—インドネシアにおける REDD+ プロジェクトの事例」は, インドネシアの気候変動政策の動向について概説するとともに, 東ジャワの国立公園の事例を取り上げ, 国レベルの気候変動政策が地域社会とどのように関わっているのか, 地域住民は地球温暖化防止にどのように貢献できるかを検討している。

○森林立地学会編 (2012) 森のバランス—植物と土壌の相互作用, 東海大学出版会。

同書は, 森林立地学会 50 周年記念事業として刊行された。森林土壌を中心とした森林の環境と植生の関係について, Ⅲ部 28 章構成で解説する。REDD プラスに関連深い章として, 第 I 部 森林と環境 第 1 章 地球温暖化, 第 4 章 森林減少がある。また REDD プラスの基礎となる森林生態系中の炭素の動きについて, 第 II 部 森林の有機物動態 第 13 章 森林の生産, 第 14 章 リター, 第 III 部 森林生態系における物質循環 第 20 章 炭素の循環 などで詳しい解説がなされている。

森林総合研究所 REDD 研究開発センターでは, REDD プラスに関する情報を同センターのウェブサイト (<http://www.ffpri.affrc.go.jp/redd-rdc/ja/>) とメルマガ「REDD 研究開発センターだより」で発信しています。ウェブサイトや「REDD 研究開発センターだより」の配信希望, REDD 研究開発センターへの情報提供等がある方は, redd-rd-center@ffpri.affrc.go.jp 宛ご連絡いただければ幸いです。

(森林総合研究所 REDD センター 藤間 剛)